

北九州工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	英語 A II
科目基礎情報						
科目番号	0007		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	生産デザイン工学科 (情報システムコース)		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	4		
教科書/教材	『Power On English Communication II』浅見道明ほか、東京書籍					
担当教員	渡辺 真一,横山 郁子					
到達目標						
1. 中学既習レベルの英単語を辞書を使わずに理解することができる。 2. 文科省検定教科書高校2年レベルの英文について、辞書を使って内容理解ができる。 3. 理解を終えた英文を、聞き手にわかりやすく音読することができる。 4. 既習の単語・文法を活用して簡単なコミュニケーション活動を行うことができる。 5. TOEIC Bridgeで130点相当の点数を取ることができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		各課の英文法を 8 割以上理解できる。	各課の英文法を 7 割以上理解できる。	各課の英文法を 6 割以上理解できない。		
評価項目2		各課の内容を 8 割以上理解できる。 。	各課の内容を 7 割以上理解できる。 。	各課の内容を 6 割以上理解できない。 。		
評価項目3		各課の語彙を 8 割以上理解できる。 。	各課の語彙を 7 割以上理解できる。 。	各課の語彙を 6 割以上理解できない。 。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	本授業は、1年次に学んだ内容を発展させ、「読み」「書き」「話し」「聞く」の4技能を総合的に向上させることを目的とする。各課の単語習得(意味・発音・アクセント)・熟語習得・文法事項理解・内容理解を通じて、語彙を増やし英語の音声に親しみ、英語で表現する力と意欲を育成する。なおこの科目では文系科目における科目間連携の充実を目指した授業を行う。					
授業の進め方・方法	各課の予習(予習問題集を用いての単語調べ、本文全体の通読など)は必須とする。辞書を必ず持参すること。TOEIC Bridge、全校一斉英単語テスト(「理工系学生のための必修英単語2600(COCET2600)」)などの成績は英語科内規に準じて評価の対象とする。適宜、小テストや各課の復習テスト、ワークブック課題などを課す。					
注意点	必ず予習を行ってから授業に参加すること。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方、予習復習の仕方、テスト、参考書、シラバスなどについての説明		
		2週	Lesson 1 What Do You Eat With? ; Lesson 2 Wrapping Culture	関係副詞where (+ S + V) … , 分詞構文 (現在分詞)		
		3週	Lesson 1 What Do You Eat With? ; Lesson 2 Wrapping Culture	関係副詞while (+ S + V) … , 分詞構文 (現在分詞)		
		4週	Lesson 1 What Do You Eat With? ; Lesson 2 Wrapping Culture	関係副詞when (+ S + V) … , S + V + O + C [=過去分詞] / 形式目的語it [=to不定詞]		
		5週	Lesson 1 What Do You Eat With? ; Lesson 2 Wrapping Culture	関係副詞when , 形式目的語it [=to不定詞]		
		6週	Lesson 3 A Story about Yaku-Sugi Cedars ; Lesson 4 Interview with Anyango	It is[was] said + that節/関係代名詞whoの非制限用法, It seems that S + V / S + V + O1 + O2 [=if/whether節]		
		7週	Lesson 3 A Story about Yaku-Sugi Cedars ; Lesson 4 Interview with Anyango	関係代名詞whoの非制限用法, S + V + O1 + O2 [=if/whether節]		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	試験解説と授業; Lesson 3 A Story about Yaku-Sugi Cedars ; Lesson 4 Interview with Anyango	関係代名詞whichの非制限用法, S + V [=be動詞] +C [=whether節]		
		10週	Lesson 3 A Story about Yaku-Sugi Cedars ; Lesson 4 Interview with Anyango	倒置, 完了不定詞		
		11週	Lesson 5 Vegetable Factories: A New Approach to Agriculture; Lesson 6 The Power of Color	進行形の受け身, 同格を表す接続詞that		
		12週	Lesson 5 Vegetable Factories: A New Approach to Agriculture; Lesson 6 The Power of Color	関係代名詞what, S + V [= have, let, make] + O + C [= 動詞の原形]		
		13週	Lesson 5 Vegetable Factories: A New Approach to Agriculture; Lesson 6 The Power of Color	未来完了形, 関係代名詞whoseの制限用法		
		14週	Lesson 5 Vegetable Factories: A New Approach to Agriculture; Lesson 6 The Power of Color	譲歩を表す副詞節, propose/orderなど+ that + S + V [=動詞の原形]		
		15週	前期末試験			
		16週	試験解説			
後期	3rdQ	1週	Lesson 7 What Is Going On in Tuvalu?; Lesson 8 Humpback Whales: A Life of Competition and Cooperation	S + V [=have, get, make] + O + C[= 過去分詞],		
		2週	Lesson 7 What Is Going On in Tuvalu?; Lesson 8 Humpback Whales: A Life of Competition and Cooperation	S + V [=have, get, make] + O + C[= 過去分詞],		
		3週	Lesson 7 What Is Going On in Tuvalu?; Lesson 8 Humpback Whales: A Life of Competition and Cooperation	過去完了進行形, S + V [=知覚動詞] + O + C [= 動詞の原形]		

		4週	Lesson 7 What Is Going On in Tuvalu?; Lesson 8 Humpback Whales: A Life of Competition and Cooperation	過去完了進行形, S + V [=知覚動詞] + O + C [= 動詞の原形]
		5週	Lesson 7 What Is Going On in Tuvalu?; Lesson 8 Humpback Whales: A Life of Competition and Cooperation	仮定法過去, 付帯状況を表すwith
		6週	Lesson 7 What Is Going On in Tuvalu?; Lesson 8 Humpback Whales: A Life of Competition and Cooperation	仮定法過去, 前置詞 + 関係代名詞
		7週	Lesson 7 What Is Going On in Tuvalu?; Lesson 8 Humpback Whales: A Life of Competition and Cooperation	仮定法過去, 前置詞 + 関係代名詞
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	試験解説と授業; Lesson 9 From Owning to Sharing; Lesson 10 I Promise to Clean Up Japan Once and for All	形式目的語it [=that節], 強調構文
		10週	Lesson 9 From Owning to Sharing; Lesson 10 I Promise to Clean Up Japan Once and for All	形式目的語it [=that節], 強調構文
		11週	Lesson 9 From Owning to Sharing; Lesson 10 I Promise to Clean Up Japan Once and for All	倍数表現, 助動詞 + have + 過去分詞
		12週	Lesson 9 From Owning to Sharing; Lesson 10 I Promise to Clean Up Japan Once and for All	倍数表現, 助動詞 + have + 過去分詞
		13週	Lesson 9 From Owning to Sharing; Lesson 10 I Promise to Clean Up Japan Once and for All	分詞構文 (過去分詞), 仮定法過去完了
		14週	Lesson 9 From Owning to Sharing; Lesson 10 I Promise to Clean Up Japan Once and for All	分詞構文 (過去分詞), 仮定法過去完了
		15週	定期試験	
		16週	試験解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	2	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	2	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	2	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	2	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	2	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	2	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	2	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	2	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	2	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	2	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	2	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	2	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	2	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	2	

				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	2	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	2	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	2	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	2	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	2	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	2	

評価割合

	試験	課題テスト	課題・小テスト・全額単語テスト等	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	65	5	30	0	0	0	100
基礎的能力	65	5	30	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0